

# 学びあい、高めあう6年間

2017年  
5月23日  
取材

開校4年目、3つの柱のもと質の高い教育実践を展開

2014年に川崎市初、県内4校目となる公立中高一貫教育校として誕生した市立川崎高校附属中学校。今年1期生が川崎高校普通科に進学しました。そして4期生を迎えた川崎高附属中を5月23日に訪問しました。

## 1期生が川崎高校に進学

「高校への接続がスムーズにいくよう、中2の3月に高校授業の体験、中3では英・数・国の授業を高校の先生にも担当してもらいました。また高校生活や大学受験に対し不安を抱かぬよう進路説明会も行いました」と開校から1期生とともに附属中学校を創造してきた和泉田校長先生。これまでの3年間はこうだったでしょう。

「本校は『かわさきLEADプロジェクト』を基盤に『体験・探究』『ICT活用』『英語・国際理解』の3つの柱を教育活動にすえています。また、生徒同士の学びあい、たとえば数学では3人1グループの学習を取り入れるなど、協働してお互いを高める学習活動も大切にできました。1期生は意欲的に取り組み、たくましく成長し高校に進学してくれました」

川崎高附属中の特徴である3つの柱。特に英語については保護者の関心も高いところ。公表はしていないようですが、英検2級・準2級の取得者数は目を見張るものでした。附属中では毎日英語の授業があり、1クラスを2つに分けた少人数授業を

見学してみました。

## 活発なペアワーク、グループワーク

「いつものグループで話し合ってみましょう。すると机がバツと並べられ、あちこちから活発な声飛び交い始めます。2年生の国語授業の1シーンを見ただけで、ふだんからどのような授業が展開されているかが見取れます。隣の教室は英語。スピーキングテストです。順番に一人ずつ呼ばれALTと1対1で会話をしています。他の生徒はグループになり、お互いのスピーチを聞いたり、タブレットPCで調べものをしてもらっています。」

初々しさあふれる1年生の教室に移動します。英語は2クラスに分かれての少人数授業です。先生の指示はほぼ英語ですが、大きな声であいさつしたり洋楽を歌ったり、

展開しています。ALT（外国語指導助手）も常駐し、きめ細かくかつ密度の高い英語指導が展開されています。さらに和泉田校長先生は「1年生は通いで、2年生は宿泊で3日間英語漬けになるイングリッシュキャンプや、英語で表現活動するイングリッシュチャレンジなどを通して、子どもたちは英語学習に対して意欲を高めているのです」。

高校では1・2年生の英語・数学は6単位、3年生から進路希望にあわせ国公立・私大、文系・理系に分かれる教育課程が組まれています。高い英語力を「武器」に1期生はどのような進路を選択していくのでしょうか。その結果は3年後ですね。

## ICT教育の先駆者として

一人一台、タブレットPCを使った学習も川崎高附属中の特徴の一つです。毎朝15分eラーニングの時間が設けられています。学習履歴は蓄積され、先生方の指導にも生かされています。教室には電子黒板機能のついたプロジェクター、PCが備わり、先生方もその環境を生かした授業を行っています。川崎高附属中のICT教育は、このほど公益財団法人パナソニック教育財団の「特別研究指定校」にも指定されたそうです。「PCの良さはたとえ調べたり発表したりする時にはたいへん役立ちます。ただ、PCを使うことが目的ではありませんから、どう活用すると良いかを1期生と一緒に研究してきました」と和泉田校長先生。

訪問するたびに生徒が自在にタブレットPCを使いこなしている様子に驚きます。教室に掲示されている新聞やポップからはペアワークで会話練習したりと活気にあふれています。隣の教室は社会科授業。タブレットPCを使っています。わずか2カ月ですが、スムーズに入力していますね。和泉田校長先生によると、いずれブライントタッチでスピーディーに入力できいくそうです。

最後に3年生の授業です。3年生は教科センター方式です。教科ごとのエリアには教室と担当教員の職員室があり、生徒は教科にあわせ移動するわけです。ホームルームは「ホームベース」と呼ばれる教室で行われます。1年生と比べるとさすがに「大人ですね。」

## 豊かな学びの6年間

校舎の移動時に高1生の授業を窓越しに見ることができました。高校生のシャツはブルー。真剣な表情で授業を受ける姿が印象的でした。高校から入学してきた生徒とは2年生の「発展期」から合流することになります。

木がふんだんに使われ、陽光降り注ぐ校舎のいたるところにリラクゼーションスペースが用意されています。最先端の教育設備は自然の優しさに包まれ、昼休みには「昼休み合唱団」の美しい歌声が響きます。

適性検査を突破し手に入れることができるのは、この素晴らしい環境だけではありません。学びあい高めあえる仲間と親身になって指導にあたる先生、自分の将来の進路を定め実現するための強い意志と高い学力。『未来をLEADする人材』が育っていることを確信し取材を終えました。

# 未来をLEADする人材を育てる かわさきLEADプロジェクト

※学校案内パンフレットより中萬学院作成

**L**earn  
学ぶ

**E**xperience  
体験

**A**ction  
行動

**D**ream  
夢

- 中1では毎日英・数・国・授業
- 1コマ45分授業7時間の時間数
- 体験型学習、課題解決型学習による思考力・判断力・表現力養成
- ICT機器を用いた分かりやすく個に応じた授業展開
- 総合的な学習の時間の充実による、体験活動を通じた探究的な学習や国際理解教育の推進
- 課題発見と情報収集、情報の整理・分析とまとめる能力の育成
- 中高協同の生徒会活動・学校行事などを通して、自分で判断し行動できる人材の育成
- 学習発表会や研究発表を通じた、生徒の自己実現の応援
- 大学の研究施設等との連携や、社会人講話、事業所体験などを実施し、生徒の夢実現をサポート
- 社会観や職業観を育成するためのキャリア教育の充実

社会で活躍するための3つのキーワード

体験・探究 ICT活用 英語国際理解



長い間中学生の進路指導主任を務めてきました。「進路は遠近両用で考えよう」と彼らに話してきましたが、本校では6年間かけて進路を決めていくことができます。「将来こうなりたい」という思い・考えをさまざまな機会を通して追い求め、自分の将来としっかり対峙することのできるこの環境を、ぜひ生かしてください。



川崎市立川崎高等学校附属中学校 教頭 西道生先生

公立には公立の良さ、公立にしかできないこともたくさんあります。本校が開校から大切にしている3つの特色がぶれることはありません。保護者の方はもちろん受検生の皆さんも、本校の良さを十分分かった上で入学してきてほしいと思います。6年間を通し、素晴らしい仲間と一緒に学びあい、高めあってください。

川崎市立川崎高等学校附属中学校 校長 和泉田政徳先生



校内にはさまざまな顔をもつリラクゼーションスペース

体育館の屋上(5階)は全天候型のテニスコート

約500名収容の講堂。学校行事や授業等で活用されます

教室に併設された専用ロックスペース

教科センター方式。教室・教員・資料が集約されています

ナイター設備もある人工芝のグラウンド

中3の「ホームベース」。授業は各教科のエリアで行われます